

今回のテーマ

変額保険についての情勢



バブルの時期にもはやされた変額保険ですが、評判は芳しくありません。訴訟問題などのトラブルもありましたが、現在ではどうなのでしょう？

1. 変額保険の成り立ち

変額保険は、いわゆる「財テク」のためのものと思われがちです。

でも、本来はインフレ時での保障額の実質目減りを防ぎ、必要な時点で必要な保障額を確実に受け取るために開発されたものなのです。

インフレ時では、物価の上昇により相対的に金銭価値が下がります。そこで変額保険では物価の上昇に伴い保険金額を上昇させることで実質的な保障額を保つようにしています。

2. 変額保険の仕組み

「予定利率」という言葉を最近よく耳にされると思います。

予定利率とは、長期にわたる生命保険の期間中を保障する際に適用される割引率です。変額保険では、実際の運用結果とこの予定利率との「差」を即時反映(=保険金の増減)することで、インフレに対応させられるようにしています。

【ご参考】

	一般の生命保険	変額保険
予定利率	1.7~1.8%程度	3.1~4.5%程度

ご存知の通り変額保険では、通常とは別に「特別勘定」として積極的な資産運用を行います。「特別勘定」運用の結果、予定利率(3.1~4.5%)を上回った部分をダイレクトに変動保険金として反映することで、インフレヘッジとなるのです。

ただし、マイナスの場合があるリスクは理解しておく必要がありますが、加入時の保障額は下回りません。

3. 変額保険の現在の状況

本来、インフレヘッジ効果を期待するには、ベンチマークとなる予定利率を低く設定しておいて予定利率を上回る部分を基に変動保険金として増加させていくものです。

ところが、現在では上記の表のように予定利率の設定は一般よりも高く逆転現象となっています。

そこで、最近、予定利率の見直しが迫られました。＜予定利率引下げ=保険料UP＞

生保会社により時期は多少異なりますが、安い終身保障に加入できるのはこの3月までのようです。

終身の保障を検討なされている方は、今月がラストチャンスになるのではないのでしょうか？

終身保険(60歳払込完了) 保険金額1,000万円の月払保険料【例】(外資系S保険会社)

	20歳	30歳	40歳	50歳
一般の終身保険(例)	14,660	20,530	32,510	67,130
変額保険(終身型)(例)	10,070	14,590	24,080	51,710

今回は変額保険(終身型)を取り上げてみました。実際にご自身の保険について参考にしてみてください。具体的なお相談、シミュレーションに応じますので、お気軽にお声をかけてみてください。



担当 齊藤 直哉